【公報種別】特許法第１７条の２の規定による補正の掲載
【部門区分】第３部門第５区分
【発行日】平成23年6月30日(2011.6.30)

【公開番号】特開2010-65337(P2010-65337A)
【公開日】平成22年3月25日(2010.3.25)
【年通号数】公開・登録公報2010-012
【出願番号】特願2008-231563(P2008-231563)
【国際特許分類】
Ａ４１Ｄ　27/00　(2006.01)
Ａ４１Ｂ　 9/00　(2006.01)
Ａ４１Ｂ　17/00　(2006.01)
Ａ４１Ｄ　27/10　(2006.01)
【ＦＩ】
Ａ４１Ｄ　27/00　Ａ
Ａ４１Ｂ　 9/00　Ｚ
Ａ４１Ｂ　17/00　Ｚ
Ａ４１Ｄ　27/00　Ｃ
Ａ４１Ｄ　27/10　Ｅ

【手続補正書】
【提出日】平成23年5月16日(2011.5.16)
【手続補正１】
【補正対象書類名】特許請求の範囲
【補正対象項目名】全文
【補正方法】変更
【補正の内容】
【特許請求の範囲】
【請求項１】
裾口部，袖口部，穿口部を含む衣料の開口部の身生地端縁にストレッチ性を有する経編地帯状体を貼り付けてなる衣料品。
【請求項２】
経編地は、メッシュ地である請求項１記載の衣料品。
【請求項３】
経編地は、弾性糸を編み込んである請求項１記載の衣料品。
【請求項４】
身生地と経編地との接着は両生地間に置いた熱可塑性接着フィルムを圧接・加熱溶融してなることを特徴とする請求項１記載の衣料品。
【請求項５】
身生地と経編地との接着は両生地間に置いた接着剤によりなされることを特徴とする請求項１記載の衣料品。
【手続補正２】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】０００４
【補正方法】変更
【補正の内容】
【０００４】
上記の点に鑑みて、本発明は、ブラジャー，ショーツ，肌着等の衣料にあって、身生地の端縁部に緊締性を持たせるために付加する弾性を有する帯状体が、取り付けを誤り位置修正を余儀なくされたような場合、即ち、従来の天ゴムなどを例えばウエストなどの縁部

分に採用した場合に、天ゴムとウエスト縁部分を綺麗にあわせる為にウエスト部の身生地の縁を天ゴムを傷つけないように切らなければならないが、その場合に天ゴムを傷つけないようにカットするのは非常に困難で、本発明では天ゴムの替わりに使用するストレッチ性のある生地である為に、例えばウエスト身生地ごとこの天ゴムの代わりのストレッチ性のある生地の切断も可能なので、縁を綺麗に簡単に処理する事を可能とした衣料を得ることを目的としている。

【手続補正３】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】０００５
【補正方法】変更
【補正の内容】
【０００５】
請求項１記載の発明は、衣料品であって、裾口部，袖口部，穿口部を含む衣料の開口部の身生地端縁にストレッチ性を有する経編地帯状体を貼り付けてなる。
請求項２記載の発明は、請求項１記載の発明において、経編地をメッシュ地としている。
請求項３記載の発明は、請求項１記載の発明において、経編地を弾性糸を編み込んだ組織としている。
請求項４記載の発明は、請求項１記載の発明において、身生地と経編地との接着は両生地間に置いた熱可塑性接着フィルムを圧接・加熱溶融してなるものとした。
請求項５記載の発明は、請求項１記載の発明において、身生地と経編地との接着は両生地間に置いた接着剤によりなされるものとした。

【手続補正４】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】０００６
【補正方法】変更
【補正の内容】
【０００６】
本発明衣料は、衣料品であって、裾口部，袖口部，穿口部を含む衣料の開口部の身生地端縁にストレッチ性を有する経編地帯状体を貼り付けてなるものとしたために、身生地に取り付けた帯状体の一部を切除するような処置を行っても、帯状体を構成する組織が解かれ編地が崩壊するような事態は生ぜず、上記切除された帯状体の端縁は綺麗な状態のまま残すことが出来、製品の商品価値を下げるような事態は生じない。